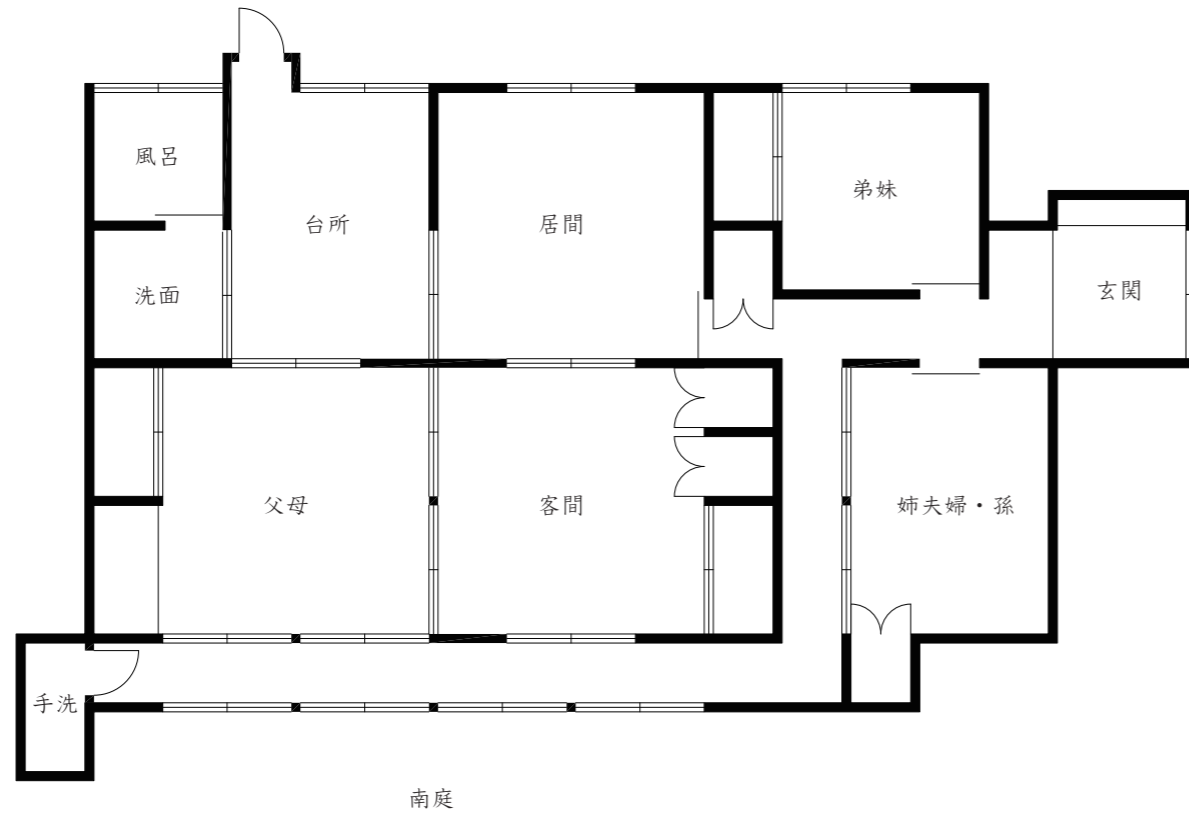


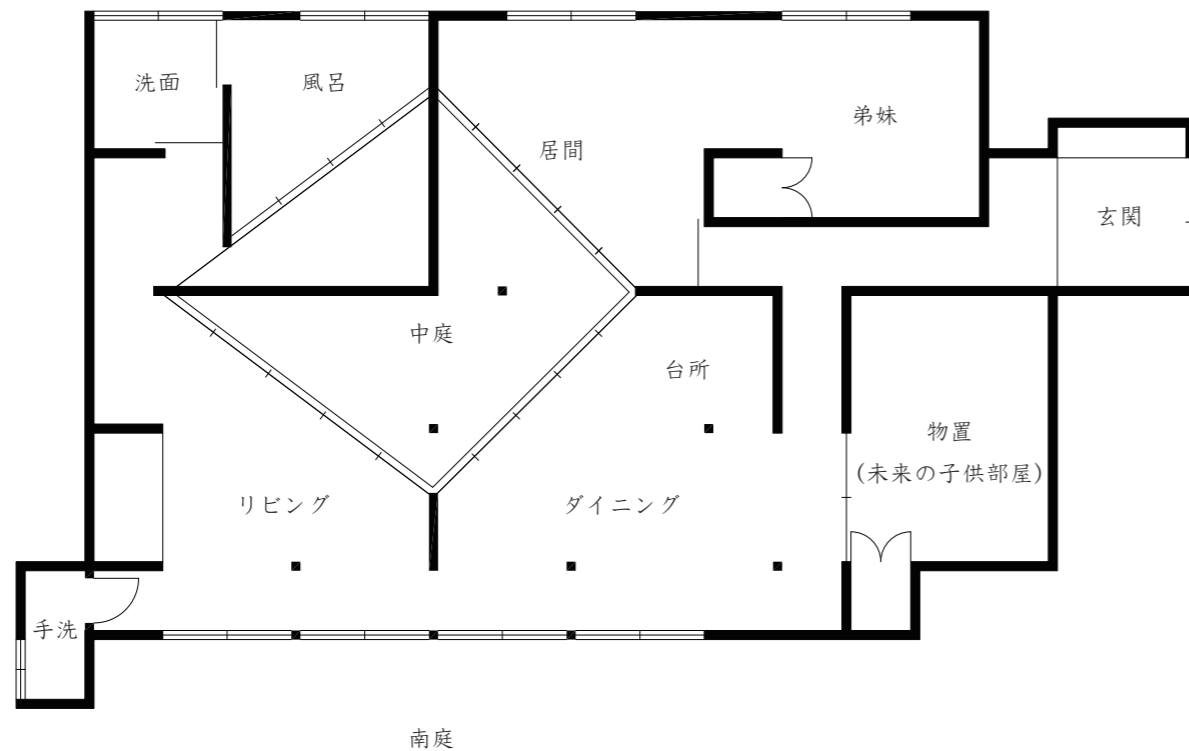
減築の増築

2011年 フグ田シラス邸改修計画

1965



2011



story：家族構成の変化

1946年の漫画連載開始以来、国民的漫画として親しまれ続けてきた「サザエさん」。長谷川町子が描いたのは、ごくごくありきたりな家族が、ごくごくありきたりな家を舞台に、ごくごくあたりまえの生活をおくる、というものである。

連載開始から65年、両親と子、娘家族という三世代の大家族構成は「当たり前」な状態からは少し遠ざかってきた。

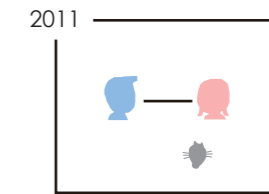
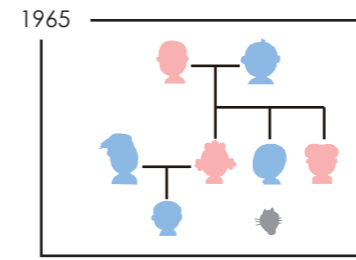
これは国民の平凡な生活を描く「サザエさん」に、当たり前を取り戻すための計画である。

ヒーローになり得るのは、平凡で幸せな生活を送る、平凡な人なのかもしれない。

住まい手：夫 フグ田 シラス (30)

妻 カニエ (27)

猫 マリ (10)

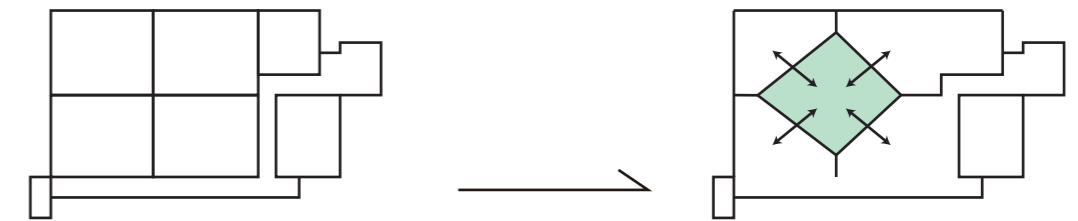


concept：減築の増築

シラスの曾祖父 磯野波平が建てたこの住宅も、現在では築70年を迎えた。「大家族→夫婦2人」という家族構成にの変化に伴い、フグ田家はこの住宅の規模を持て余すこととなる。また「田の字」プランに玄関や縁側をまきつけるように構成されたこの住宅では、直接外部に通じる窓をもたない部屋もあり内部はやや暗すぎる。

そこで、「田の字」の中心部を減築し、中庭を設けることとした。これにより各室の採光を確保し、また夫婦のみの世帯らしく各室に中庭を通じゆるりとしたつながりをもたせた。縁側や廊下といった移動空間も解体し、ダイニングやリビングは南庭に面したワンルーム的な使い方を可能とする。

この改修は全て減築のみの操作によって行われている。これは寿命へと近づく建築のリノベーションにおける、つつまじやかな姿勢、あるいは美学である。



method：木造リノベーション

この住宅は日本の古典的な木造住宅であり、910の平面グリッドにのった柱梁構造となっている。よって壁は基本的に耐力を求められず、減築を容易に行うことができる。日本の住宅ストックは未だその大半を木造によって占めており、減築によるリノベーションはこれからの住宅改修産業のひとつの典型と成り得るのではないかと考える。

